

報 所

◆第9回参与会の開催

去る10月1日(火)11時から当研究所において第9回参与会を開催した。参与会は、島重信(外務事務次官)、今井善衛(通商産業事務次官)、大堀弘(経済企画事務次官)、堀越三(経団連事務局長)、松本重治(国際文化会館理事)、笠信太郎(朝日新聞論説主幹)、蝦山政道、川

野重任(東大教授)、木内信胤(世界経済調査会理事)の各参与、小林会長、東畑所長、沢沢、田島両理事出席のもと、「昭和39年度予算について」、「長期計画について」、「アジア経済の長期展望作業について(中間報告)」について報告・説明を行なった。

◇「アジア貿易の現状と将来」ゼミナール日程表

(会場 当研究所ロビー)

日 時	区 分	司 会	題 目	所 属	講 師 名
10月28日(月) 後3.00~5.30		(司会)	アジア経済研究所調査研究部長	笹本武治	
		I	アジア貿易の地位と特質	関西学院大学教授	片山謙二
		II	国連貿易開発会議とアジア貿易	経済企画庁貿易為替課長	馬越善通
10月29日(火) 同 上		(司会)	アジア経済研究所動向分析室長	梶川勝	
		III	第1次産品貿易の国際環境	アジア経済研究所専門調査員 関西学院大学教授	原覚天
		IV	アジアの工業化と需給関係	早稲田大学助教授	山岡喜久男
10月30日(水) 同 上		(司会)	アジア経済研究所調査業務部長	西川次郎	
		V	アジア貿易安定の諸施策	農林省参事官	長谷川善彦
		VI	華僑・印僑の経済活動	成城大学教授	内田直作
10月31日(木) 同 上		(司会)	アジア経済研究所専門調査員	原覚天	
		VII	アジアの経済発展と輸出商品の構造変化	日本ECARF調査部長	栗本弘
		VIII	アジア諸国と先進国貿易の諸問題	日本貿易会調査課長	功力喜久雄
11月1日(金) 同 上		(司会)	アジア経済研究所管理部長	藤崎信幸	
		IX	東南アジア経済統合の可能性	慶応義塾大学教授	山本登
		X	アジア貿易の将来	経済企画庁経済研究所長	吉植悟

◆アジア経済研究所「関西ゼミナール」実施計画(案)

—— 当研究所の海外派遣員ならびに現地調査の報告を中心として ——

[注:(海)は海外派遣員,(現)は現地調査員] 38. 10. 5

期日(開催地)	区 分	共 催 所	司 会	と 演 題	講 師
11月5日(火) 後1.00~5.00 京 都		京 都 大 学 (同 上)	I	中国における最近の再生産論争	調査研究部 小島麗逸(海)
			II	インドにおけるビジネス・コミュニティの諸問題	" 山口博一(海)
			III	アラブ連合の経済政策	" 林武(海)
11月6日(水) 1.00~5.00 大 阪		大 阪 経 済 調 査 会 (大阪商工会議所)	I	第2次5ヵ年計画期における中国の農業生産	調査研究部 尾上悦三(海)
			II	インドにおける混合経済の再評価	長期成長室 田部界(海)
			III	パキスタン第3次5ヵ年計画の概要	" 柳沢雅一(海)
11月7日(木) 1.00~5.00 大 阪		同 上	I	アフリカの経済開発	調査研究部 藤田弘二(現)
			II	イラク革命と中東情勢	" 松村清二郎(海)
			III	マレーシア連邦成立の経済的意義	長期成長室 米田公丸(海)
11月8日(金) 1.00~5.00 神 戸		神 戸 大 学 (同 上)	I	ラテン・アメリカ経済発展の諸条件	調査研究部 大原美穂(現)
			II	アラブ社会主義と協同組合	総務部 中岡三益(海)

◆主な人事異動

主な人事異動が次のとおり発令された。

理事	田 島 秀 夫
動向分析室長事務取扱を解く	
長期成長調査室長	吉 川 稔
総務部次長兼務を解く	
総務部参事兼務を命ずる	堀 田 勝
動向分析室長を命ずる	
総務部秘書課長	根 岸 富 二 郎
総務部次長を命ずる	
総務部秘書課長兼務を命ずる	

以上昭和38年10月1日付

◆「アジア経済の長期展望計画」作業進捗状況

〔総合委員会〕

1. 委員会の開催
 - (1) 第2回委員会（9月17日）
中間報告案について各委員長より作業経過報告、報告の概要、残された問題点等の報告がなされ、各報告案が承認された。

〔調整委員会〕

1. 委員会の開催
 - (1) 調整委員会（9月2日）
各委員会より提出され中間報告案の検討および調整を行なった。
 - (2) 小委員会（委員長連絡会議）（9月16日）
中間報告案の最終的検討を行なった。
 - (3) 小委員会（委員長連絡会議）（9月21日）
中間報告の問題点の集約、および今後の研究計画を打ち合わせた。

〔総体予測委員会〕

1. 委員会の開催
 - (1) 第28回委員会（9月28日）
中間報告以後の研究の進め方を検討。
 - (2) 貿易小委員会（9月26日）
輸出の推計値および輸出額の別途推計方法について検討。
2. 事務局の作業状況
 - (1) 国別産業部門別の予測。
 - (2) 国別・品目別輸出表（輸入地域別、U. S. S. R. 東欧共産圏、Oceania, ラテン・アメリカ、アフリカ、中近東、中共）作成。
3. 今後の予定
 - (1) 海外よりの経済援助等を含む国際収支面よりの制約を加味した経済成長率のシミュレーション分析。
 - (2) 貿易を多部門に分割した成長モデルの研究。
 - (3) 経済諸部門に生産関数を適用する方法の検討。
 - (4) 成長予測の暫定値の再検討。
 - (5) 貿易マトリックスの作成、輸入係数の計測。

〔農業委員会〕

1. 委員会の開催
 - (1) 第23回委員会（9月16日）
中間報告、最終案を検討。
 - (2) 第24回委員会（9月20日）
需要予測の方法論について検討。
 - (3) 第25回委員会（9月26日）
精糖工業会調査課長 平野哲郎氏を講師として招き、砂糖の予測値検討。

2. 事務局の作業状況
 - (1) 油脂原料およびシュートの生産予測値の算出、検討。
 - (2) 需要予測値の整理および検討。
3. 今後の予定
 - (1) 油脂原料およびシュートの生産予測値の決定。
 - (2) 需要予測方法の確定。

〔工業委員会〕

1. 委員会の開催
 - (1) 第12回委員会（9月30日）
議題「工業委員会中間報告(案)」の審議
事務局より、展望計画全般の進捗状況および商品別消費予測結果について報告を行なった。各商品担当の委員より補足説明があり、全員中間報告を承認した。なお、今後の作業スケジュールは、各商品担当の委員と個々に打ち合わせて決定することにした。
 - (2) 事務局の作業状況
下記の部内資料を作成。
 - (1) 「アジア諸国工業構成比一覧」(工業委員会 No. 15—追補版—)
 - (2) 「東南アジア諸国の肥料工業における現有および計画設備」(中間報告書付属資料)
2. 今後の予定
 - (1) 中間報告における消費と生産展望値の吟味と改善。
 - (2) 生産予測方法の吟味。

〔資源委員会〕（9月中）

1. 委員会の開催
林委員が、海外電力調査会、石油鉱業連盟、八幡製鉄(株)、住友商事(株)、三井金属鉱業(株)、および日本揮発油(株)の各委員を歴訪し、中間報告に関する総合委員会の審議経過を報告するとともに、最終報告の作成に関する打ち合わせを行なった。
最終報告の調査品目ならびに分担はつぎのとおり。

(1) 鉄・鉱石	八 幡 製 鉄(株)
(2) スズ	三 井 金 属 鉱 業(株)
(3) 銅	
(4) ボーキサイト	住 友 商 事(株)
(5) 原油	石 油 鉱 業 連 盟
(6) 電力	海 外 電 力 調 査 会
(7) 石油製品	日 本 揮 発 油(株)
2. 委員の依頼
 - (1) ボーキサイト担当として、住友商事(株)、東京非鉄金属部軽金属課をわずらわすこととなり、10月1日付をもって同社東京非鉄金属部長、太田邦夫氏を委員に依頼した。
 - (2) 石油製品担当の日本揮発油(株)につき、これまでの委員同社総務部開発課係長仙波覚氏に代え、10月1日付をもって同社開発課長加藤房之助氏に委員を依頼した。
 - (3) 専門委員佐川正雄氏は、バンコック駐在のため9月30日付をもって委員を解任した。
これにより、委員総数は15名となる。

◆動向分析室の出版物

カレント・レポート No. 5. 浅野幸穂、『マレーシアと「対決」するインドネシア』
クロノジー No. 1. 今川英一、『ネ・ウィン政権の1年』